

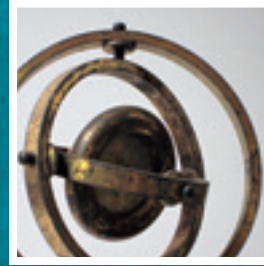
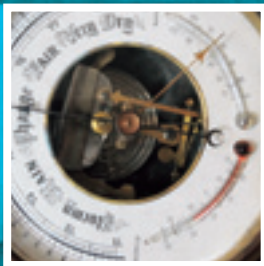


平成 25 年度金沢大学資料館特別展

二十年目の

邂逅

泣き別れになった四高物理実験機器



■場 所：金沢大学資料館展示室

■会 期：平成 25 年 10 月 17 日（木）～ 11 月 22 日（金）*平日のみ開館（但し 11 月 2～4、9、16 日は開館）

■開館時間：10 時～ 17 時 *入館は 16 時 45 分まで ■入場料：無料

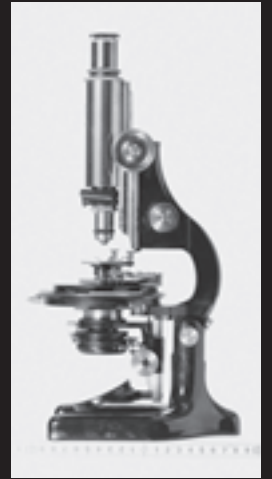
■連 絡 先：金沢大学資料館 076-264-5215 ■メール：museum@adm.kanazawa-u.ac.jp

■協力：石川県自然史資料館



主な展示品

明治 11 年文部省交付物理実験機器(「鉛粘着板」「ガス短銃」「衝突球」「誘導コイル」:石川県立自然史資料館蔵) / リッチー社製「マグデブルグ半球」(本館蔵) / エアネッケ社製「エジソン氏フォノグラフ」(本館蔵) / 島津製作所製「電信機模型」(本館蔵) / 教育品製造合資会社製「螺旋吸水器(アルキメデスのポンプ)」(本館蔵) / 鶴淵幻灯舗製幻灯スライド「通俗衛生」(石川県立自然史資料館蔵) / カール・ツァイス社製「限外顕微鏡」(本館蔵) / カール・ツァイス社製「限外顕微鏡・附属品」(石川県立自然史資料館蔵) / マックス・コール社製「クルックス氏管」(本館蔵) / 中村浅吉測量器械製「クルックス氏管」(石川県立自然史資料館蔵) / 遠藤高環作「し景儀」(弘化 3 (1846) 年:本館蔵) / 榎森観亮作「回照儀」(明治 12 (1879) 年:本館蔵) ほか



右:限外顕微鏡(資料館蔵)
 左上:限外顕微鏡附属品(石川県立自然史資料館蔵、学術資源リポジトリ協議会 HP より)
 左下:鶴淵幻灯社製スライド「第十九眼球」(石川県立自然史資料館蔵、学術資源リポジトリ協議会 HP より)

特別展企画にあたって

四高の物理実験機器群は、現存する旧制高校物理実験機器コレクション中最大のモノです。四高から本金沢大学教養部(現在の共通教育機構)に伝えられて使用されていましたが、1993年の教養部移転に際し二つに分けられ、一つは本資料館に、もう一つは石川県に寄贈され、現在、石川県立自然史資料館に所蔵されています。現在、この両方の物理実験機器コレクションのデジタル・アーカイブ化が、前者は金沢大学ヴァーチャル・ミュージアム・プロジェクトの一環として、後者は学術資源リポジトリ協議会の手で実現し、泣き別れになったコレクションをweb上で統合しようとする試みも進行中です。

こうした状況を念頭に、本資料館では、今年(2013年)が教養部移転から20年目の節目にあたることを記念して、両コレクションを合体展示する特別展を企画し、泣き別れになったコレクションを本来あるべき姿で展示することを、コンセプトの柱としました。展示タイトル「二十年目の邂逅(かいこう)」はそれを意味するものです。

この展示をご覧になられた皆さんには、四高物理実験機器の学術的価値やその「美しさ」に気づくとともに、20年前の教養部移転や100年を超える四高物理実験機器の「波瀾万丈の歴史」に思いを致してもらえれば、幸いです。

平成 25 年度 金沢大学資料館特別講演会

明治以降における 近代科学移入と 四高由来実験機器群

講師:大阪経済法科大学教授 永平 幸雄

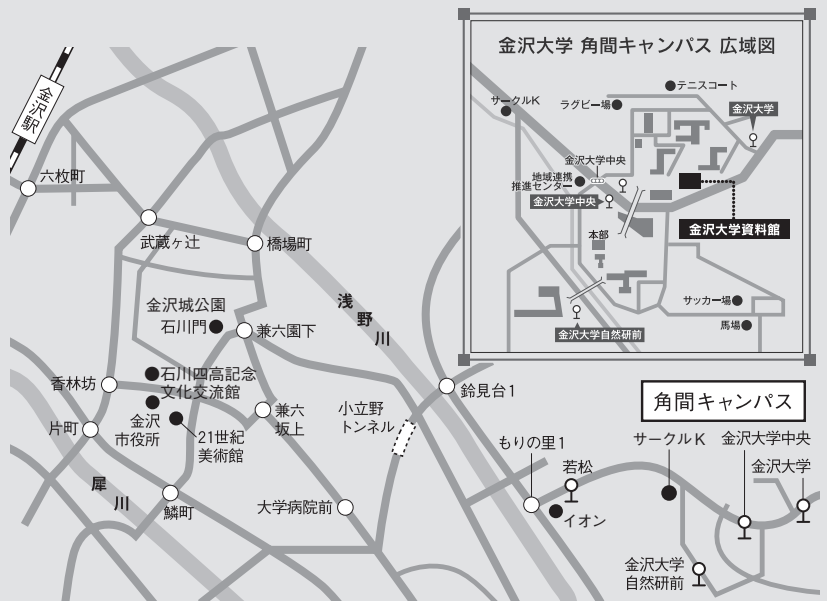
日時:平成 25 年 10 月 25 日(金)

14:45 ~ 16:15

場所:金沢大学附属中央図書館 3 階 AV 室

アクセス

北鉄バス「金沢大学行き」に乗り
 「金沢大学中央」バス停下車、徒歩 5 分
 JR 金沢駅東口からの所要時間は 40 分



二十年目の邂逅 ~泣き別れになった四高物理実験機器~

会場:金沢大学資料館展示室(附属中央図書館内) 入場無料

問い合わせ先:金沢大学資料館 TEL 264-5215 museum@adm.kanazawa-u.ac.jp

★本資料館では同時期に、写真展「よみがえる城内キャンパス」(11月1日~11月14日、会場:金沢城公園鶴の丸休憩所)も開催しています

表面写真出典:(左上)右へ)ステレオスコープ(本館蔵)、ガス短銃(石川県立自然史資料館蔵)、クルックス氏管(本館蔵)、眼球模型(石川県立自然史資料館蔵)

(左下)右へ)アネロイド気圧計(石川県立自然史資料館蔵)、サイレン(本館蔵)、誘導コイル(石川県立自然史資料館蔵)、ケーロスコプ(ジャイロスコプ)(本館蔵)

2013/10/17 ~ 11/22

10時~17時

(土日祝閉館 但し11月2~4・9・16は開館)

